

途上国のコンクリート事情

- 我が国となにが違うのか？

基礎的な知識の不足や現場施工での意識の低さが問題となります。（日本人の現地技術者も含まれます。）また、入手できる材料にも注意が必要です。

- 生コンクリート工場のレベル

非常にバラツキがあります。

- 材料（骨材、セメントなど）、気候・風土（温度など）

岩塩入りの骨材（砂漠から採取した骨材）、火山性の骨材

AE 剤を必要な地域でも使用しないことがあります。

骨材が非常に入手しにくい地域もあります。

- 現場所長は常時監督する必要があります。

• 品質の良くない材料を用いても、必要な品質を有するコンクリートを製造する技術が求められます。